

第7巻 PDF 読本



羽越本線（秋田～新津）

白新線（新発田～新潟）

2024年4月3日 歩く鉄道作家 樫原 勉

<目次>

はじめに

第1章 羽越本線（秋田～あつみ温泉：営業キロ 161.9 km）・・・4

第2章 羽越本線（あつみ温泉～新発田～新津：

営業キロ 109.8 km）・・・39

第3章 白新線（新発田～新潟：営業キロ 27.9 km）・・・96

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第二弾目として、奥羽本線や信越本線などに接続する、秋田県・山形県・新潟県を走る、本州北部にある羽越本線・白新線の旅（営業キロ 299.0 km）について執筆させて頂きました。

本作品はカッシー館にある榎原勉文庫で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 16 作目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

第1章 羽越本線（秋田～あつみ温泉）

第1節 旅プラン（秋田～あつみ温泉）161.9km

- 秋田・山形・群馬旅行プラン(営業キロ 236.3 km)
- 悪天候や土地の不案内もあり、最終的には次のプランで臨むことになった。
- なお、奥羽本線（東能代～秋田）と上越線（水上～沼田）の旅日記については、今回の旅日記から除外する。

○2020年6月25日（木）曇り／雨 移動日 → 奥羽本線記載のため除外
こまち17号 大宮 10:46 → 秋田 14:13
秋田泊（秋田駅東口東横イン：018-889-1045）



○6月26日（金）雨／曇り → 奥羽本線のため除外
秋田 7:28 → 東能代 8:25
東能代～北金岡～森岳～鹿渡～鯉川～八郎潟（27.9 km）
八郎潟 18:40 → 秋田 19:13
秋田泊

○6月27日（土）曇り → 奥羽本線のため除外
秋田 7:28 → 八郎潟 8:00
八郎潟～井川さくら～羽後飯塚～大久保～追分～上飯島～土崎～秋田（28.8 km）
秋田泊

○6月28日(日)曇り/晴れ

秋田 5:36 → 仁賀保 6:40

仁賀保～西目～羽後本庄～羽後岩谷～折渡～羽後亀田 (29 km)

羽後亀田 17:48 → 秋田 18:19

秋田泊

○6月29日(月)曇り/晴れ

秋田 6:50 → 羽後亀田 7:23

羽後亀田～岩城みなと～道川～下浜～桂根～新屋～羽後牛島～秋田 (28 km)

秋田泊

○6月30日(火)曇り/晴れ/雨

秋田 6:50 → 仁賀保 7:55

仁賀保～金浦～象潟(きさかた)～上浜～小砂川 (19.9 km)

小砂川 16:39 → 酒田 17:08

酒田泊 (Hアルファワン酒田 : 0234-22-6111)



○7月1日(水)曇り/雨 → 羽越本線のため除外

酒田 7:55 → 小砂川 8:28

小砂川～女鹿(めが)～吹浦(ふくら)～遊佐(ゆざ)

～南鳥海～本楯(もとたて) (21.5 km)

本楯 17:01 → 酒田 17:08

酒田泊

○7月2日(木)曇り/雨 → 羽越本線のため除外

酒田 7:55 → 本楯 8:02

本楯～酒田～東酒田～砂越～北余目(あまるめ)～余目～西袋～藤島～鶴岡 (33.9 km)

鶴岡泊（アパホテル：0235-25-0111）



○7月3日（金）晴れ

鶴岡 7:41 → あつみ温泉 8:32

あつみ温泉～五十川～小波渡～三瀬～羽前水沢～羽前大山～鶴岡（29.6 km）

鶴岡泊

○7月4日（土）曇り／雨 移動日 → 上越線のため除外

いなほ6号 鶴岡 9:23 → 新潟 11:09

新潟 12:06 → 長岡 13:22

長岡 13:48 → 水上 15:46

水上泊（天野屋ホテル：0278-72-2307）



○7月5日（日）曇り／晴れ → 上越線のため除外
水上～上牧～後閑（ごかん）～沼田（17.7km）
沼田 13:31 → 高崎 14:20 →大宮 15:42

第2節 4日目：2020年6月28日（日）：仁賀保～羽後亀田 曇り

秋田・山形・群馬の旅の第4弾は、2020年6月28日（日）曇り空の中、羽越本線の仁賀保駅から羽後亀田駅までの営業キロ29kmに挑戦する。安全面を考え、当初考えたダイヤより74分早めた始発（秋田発5時36分）で仁賀保駅に移動する。この決断は、結果的に功を奏す。各駅の到着時刻は次の通り。



※秋田駅、仁賀保駅

仁賀保（6:52）～西目（9:40）～羽後本庄（11:48）～羽後岩谷（14:47）～折渡（16:45）
～羽後亀田（17:40）



※仁賀保駅、仁賀保駅界限

①仁賀保駅から西目駅の道筋は、一本路であったが、本日の中では営業キロ 8.4 km と長い道中でもあり、想定外に途中の道筋で数回右往左往する場面もあった。風光明媚な海岸線を歩く。8時1分、仁賀保市から由利本荘市となる。9時13分、西目中学校前を通過する。近郊の交差点でも駅の方がわからず、信号に停まっているドライバーの方にお伺いし、無事西目駅を踏破できる。



※風光明媚な海岸線を歩く



※西目中学校前、西目駅

②西目駅から羽後本荘駅までは、山間で鉄道に沿った路筋はなく、風光明媚な海岸線に沿った大回りの国道7号線を歩くことを余儀なくされる。山間に沿って風力発電の塔が随所にあった。途中薄日となり、10時43分晴れとなる。少し暑さを感じる。この区間は、要所要所で通行人と運よく対面でき、路に迷うことなく、駅舎工事中の羽後本荘駅に到着できる。それにしても、本荘市内に入ってから羽後本荘駅までは遠かった。何度も「本荘駅はまだ真っ直ぐですか」と聞く場面となる。運よく、お昼時であったので駅前の”都”という店で一息いれる。今回のシリーズで、ランチ休憩は今回が最初で最後であった。



※水林バス停、本荘郵便局、羽後本荘駅



※都にて鮭定食で一息

③羽後本荘駅から羽後岩谷駅では、本日の中で営業キロ 7.1 km と 2 番目に長かった。途中秋田空港の看板を目にする。要所で地元の人とタイミングよく対面でき、14 時 27 分、岩越橋（芋川：万歩計で 188 歩）を渡った先で近道を教えて頂く。踏切を横切った先に羽後岩谷駅があった。



※岩越橋、羽後岩谷駅

④羽後岩谷駅から折渡駅は、営業キロ 4.7 kmとあったが、鉄道はトンネル経由のため、山道の道筋を余儀なくされる。地図の解釈を誤って、山間の細い路筋を進もうとしていた。地元の人にお伺いしたところ、自分が想定していた道筋と大きく乖離していた。親切にも、車で鉄道を横切った分かりやすい地点まで車で送って頂く。お伺いしたにも関わらず、私が遠目で右往左往している姿を見かねたのであろう。このような場面は、本年3月木津駅への道筋でも車で近くまで送って頂いた。感謝また感謝。山道に沿って、紫陽花が沿道の随所で観賞できた。時々車の往来はあった。一方、”熊出現警戒”の標識もあった。16時11分、峠辺りで南無折渡地蔵大菩薩前を通過。16時21分、ウォーキングの人と対面する。歩いて山間が続く。16時36分、前方にトンネルを出た線路を見つけ安堵する。県道69号線に出て、300m位先にある鉄道に沿って歩いた先に折渡駅があった。この駅は一日数便しかか停車しない秘境駅（下り5便）であった。



※折渡駅への路、親切な方で送ってもらった地点、紫陽花のオンパレード



※紫陽花を背景に、南無折渡地蔵大菩薩、熊出現の標識



※折渡駅への路、折渡駅



※折渡駅、折渡駅の時刻表

⑤折渡駅から羽後亀田駅までは鉄道に沿った路筋を歩くことができる。17時、岩の沢踏切を横切り鉄道の右側を。17時31分、蛇田踏切を横切り、鉄道の左側を歩いた先に羽後亀田駅があった。運よく、8分の待ち合わせで秋田行きの下り電車に乗ることができる。駅前の蕎麦屋で夕食後、ホテルに戻り、NHK大河ドラマ（まつとと利長の名場面）を見ながら晩酌し、一日の疲れを癒す。



※特急”いなほ”、蛇田踏切、羽後亀田駅



※羽後亀田駅（運よく電車来る）、秋田駅（電気を灯した秋田犬）、夕食の蕎麦屋（2回目）

第3節 5日目：6月29日（月）：羽後亀田～秋田 曇り

秋田・山形・群馬の旅の第5弾は、6月29日（月）曇り空の中、羽越本線の羽後亀田駅から秋田駅までの営業キロ28kmに挑戦する。昨日に引き続き、ホテルでの朝食はとらず、本日の歩きに臨む。



※秋田駅、羽後亀田駅

本日の駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

羽後亀田（7:31）～岩城みなと（9:35）～道川（10:21）～下浜（12:46）～桂根（13:55）～新屋（15:27）～羽後牛島（16:50）～秋田（17:40）

①羽後亀田駅から岩城みなと駅までは、風光明媚な海岸線と風力原動機を見ながらの道中となる。風力原動機がある海岸線で幻想的な雲と対面する。岩城みなと駅は、新鶴潟連絡道を通った先にあった。駅員のスタッフの方に、秋田までの路筋などについて伺いする。この駅は道の駅”岩城”と目と鼻の先にあった。



※風力原動機、新鶴潟連絡道、岩城みなと駅

②道川駅は、国道に沿ってあり、道川跨線橋を渡った先にあった。



※道川駅

③下浜駅への道筋は、山間の高台にある新国道7号線を歩いたため、高台から前方200m先に下浜駅が見えるが、この道路から下りる地点がなく困窮する。誤った路筋は、11時50分察知する。当初の予定はJR線の左側を歩く行程にも関わらず、JR線を横切って鉄道の右側になったからである。いずれ、誤った道路から下りられる路があるであろうと軽い気持ちで引き返さず邁進する。しかし、いくら歩いても下りる地点を必至に探すが見当たらず。12時30分、やっと下りられる道路を見つけ安堵する。12時35分、観音沢踏切を横切り、行き過ぎた道筋を小走りで歩いた先に下浜駅（12時46分）があった。



※高台の国道からの眺め



※下浜鮎川橋、遠くに下浜駅が、新国道を潜る



※長浜古戦場跡、観音沢踏切、下浜駅



※下浜駅（貨物列車がやって来る）、桂根駅の時刻表

④下浜駅から桂根駅は、海岸線を左手にして鉄道に沿って歩く。しかし、ナビで桂根駅が登場するが、駅への道筋が見つからず。近くで道路工事をしていた方にお伺いし、桂根駅への道筋を教えてください。「桂根踏切を横切って、境川（26歩）を渡って道なりに歩いた先にある」とのことだった。この駅も折渡駅と同様、一日数便であった。この駅から、国道がちらっと見えるが、その距離遠し。



※桂根駅、遠くに国道！！

⑤桂根駅から新屋（あらや）駅への道筋は、酒田第1街道踏切（14時21分）までは、鉄道に沿って右側を歩く。この踏切から道筋に注意を要する。14時55分、正一位稲荷

神社で、遅まきながら本日の安全を祈願する。14時57分、館の丸大橋を渡るか否かで迷っているところで、細井さんという方に知り合う。新屋までの路筋を聞いたところ、「本日仕事あけで散歩しています。新屋駅までご案内しましょう」と心温まる回答を頂く。30分位、色な世間話をしながら進む。充実した時間であった。駅員さんに記念写真を撮って頂き、お礼を言って別れる。



※新屋駅への路、館の丸大橋（橋に羽越本線と表示）



※新屋駅で記念写真

⑥新屋駅から羽後牛島までの路筋は、風光明媚な近隣公園を観賞した後、秋田大橋（万歩計で1,029歩）を渡る。天気が悪くなる前兆か、コバエが私の周りに寄り添い、払いのけながら進む。橋を渡った先で雨となる。お蔭で、コバエは流れ落とすことができる。同時に勘が冴え、羽後牛島駅への道筋をピタリと充て、悪天候の中の道中を無難に対処する。



※近隣公園、秋田大橋



※羽後牛島駅

⑦羽後牛島駅から秋田駅の道筋は、雨も止み、順調に進むことができる。ホテルで一汗流した後、駅構内にあるトピコ3Fにある”秋田港”で最後の秋田の夜を楽しむ。高清水、天寿鳥海山、出羽の富士は美味かった。



※秋田駅



※秋田港で最後の秋田の夜を楽しむ

第4節 6日目：6月30日（火）：仁賀保～小砂川 曇り



東横イン（1128号室）、東横イン



※ALVE ビルに東横イン、秋田駅への通路、秋田港



※本日の服装、秋田駅、仁賀保駅

秋田・山形・群馬の旅の第6弾は、6月30日(火)曇り空の中、重いリュックを背負って仁賀保駅から小砂川駅までの営業キロ19.9kmに挑戦する。当初は吹浦までの28.6kmを考えていたが、雨の遭遇のため、急遽、秋田県までの小砂川止まりとする。結果的には大成功であった。山形県への県境越えに加え、女鹿駅から吹浦駅までの路筋は難しく、雨の中での歩きや日没後の歩きでは、とても踏破できる環境ではないと判断したからである。そういう意味では、私にとって恵みの雨であったかも知れない。



※仁賀保駅、仁賀保駅界隈からの鳥海山

本日の歩きは、鳥海山を横目に観ながらの歩きとなる。道川駅と羽後亀田駅で上下の電車の離合がある。駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

仁賀保(8:16)～金浦(10:06)～象潟(きさかた、12:05)～上浜(13:50)～小砂川(15:05)

①仁賀保駅で金浦マップを頂く。8時27分、24歩ある大沢橋(きょうでん橋)を渡り、国道7号線に合流する。8時52分、酒田まで47km地点に到達。9時55分、西国三十三観世音に面した観音潟からの鳥海山は素晴らしい眺めであった。10時6分、金浦駅構内を散策する。



※大沢川、仁賀保市金浦



※西国三十三観世音菩薩からの鳥海山



※金浦駅、陣屋レストラン背後の鳥海山

②象潟駅への道筋、陣屋レストラン背後の鳥海山も雄大であった。11時25分、道の駅象潟に立ち寄る。この道の駅に面して温泉施設(ねむの丘)があった。芭蕉筆「腰長や」発句短冊碑があった。この道の駅で、イカ焼きを頂く。とても美味かった。11時48分、新潟206km、鶴岡59km、酒田38kmの道路標識前を通過し、12時5分象潟駅に到着する。13時51分、村社諏訪神社前で今日の安全を祈願する。



※道の駅象潟、芭蕉記念碑



※イカ焼き、象潟駅

③13時36分、象潟町西中野沢で日差しを感じ、傘をさす。12時50分、下浜駅と好対照の上浜駅に到着する。14時5分、上浜跨線橋を横切り、鉄道の左側となる。14時20分、坂が続く。14時57分、JR線を横切り、鉄道の右側となり、道なりに歩いた先に小砂川駅(15時5分)があった。この駅で偶然にも1万1千kmを達成する。雨も強くなる恐れもあるので、当初の予定を変更して打ち上げとする。この駅で、16時39分までの約1時間半の待ち時間となる。この待ち時間はとても長く感じた。「もしもこのような事態になるのであれば、道の駅にある温泉で一息いれたかったなあ」と後悔する。



※見事な花壇、上浜駅



※紫陽花、小砂川駅近し(小雨に逢う)



※小砂川駅

④16時36分の電車で酒田駅まで移動する。到着ホームでは酒田から新津までの車両(非電化か?)が停車していた。酒田駅を種々のアングルで撮影し、ホテルアルファワン酒田に移動する。



※小砂川駅、酒田駅



酒田駅構内



※酒田駅、ホテル α1 酒田

⑤ 駅前の居酒屋”哲平”で、東京から来られ若者と、世間話をして本日の疲れを癒す。学生時代以来、久し振りにラジオ深夜番組を聞く。NHK 深夜便の「世界一貧乏の水族館が如何に客を呼ぶかの戦略」は、強く印象に残った。



※哲平で晩酌